

2021年9月10日
マックスバリュ西日本株式会社

— 2030年 使い捨てプラスチック使用量半減に向けて — 「ボトル to ボトル プロジェクト」への参画を開始

マックスバリュ西日本株式会社（本社：広島県広島市南区／代表取締役社長：平尾 健一）は、イオンと丸紅グループが2021年1月より取り組んでいる、「ボトル to ボトル プロジェクト」への参画を開始いたしますのでご案内申し上げます。

「ボトル to ボトル プロジェクト」とは、お客さまが当社店舗に持ってきてくださった使用済みペットボトルを、クローズドリサイクル※₁で再製品化し、資源循環体制の構築を目指す取り組みです。イオンは、脱炭素型・資源循環型社会の実現に向けて、使い捨てプラスチックの使用量を2030年までに2018年比で半減する目標を掲げています。トップバリュのすべての商品で環境・社会に配慮した素材を使用するとともに、ペットボトルに関しては100%再生または植物由来素材へ転換します。本プロジェクトは、その目標達成に向けた取り組みの柱として、使用済みペットボトルの回収から再製品化を一気通貫で行い、安定的かつ持続的な資源循環体制を目指すものです。

当社は、店頭でのペットボトル回収を実施しており、多くのお客さまにご協力をいただいています。これまでも、回収したペットボトルは様々な形でリサイクル活用されていますが、本年9月から、広島・山口エリアのマックスバリュ、マルナカ、およびザ・ビッグの全77店舗で回収したペットボトルは、自社の製品へと生まれ変わらせて活用することとなりました。回収したペットボトルは再生PET樹脂となり、これを原材料に使用したペットボトル飲料を、イオントップバリュ（株）が製品化し、再び当社の店舗で販売する予定です。

当社は、今後も地域に根ざしたスーパーマーケットとして持続可能な社会の実現を目指し、資源循環体制の構築を始めとする脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

<「ボトル to ボトル プロジェクト」スキーム>

- 回収、収集運搬を丸（株）アラインと丸紅フォレストリンクス（株）が、その後の再商品化、プリフォーム※₂の製造・供給までを丸紅ブラックス（株）が構築・運営
- 店舗で回収したペットボトルはクローズドリサイクルで再生PET樹脂となりトップバリュの商品として製品化。



※1 クローズドリサイクル：店頭で回収したペットボトルをリサイクル樹脂に再商品化し、イオン製品の原料として利用すること。
 ※2 プリフォーム：ペットボトルの原型。

■循環型社会の実現に向けたイオンの取り組み

「イオン プラスチック利用方針」

イオンは、脱炭素社会の実現に向けて、持続可能なプラスチック利用に取り組みます。店舗・商品・サービスを通じてすべてのステークホルダーの皆さまとともに、脱炭素型かつ資源循環型の新たなライフスタイルの定着を進めてまいります。

1. 事業活動における資源の無駄遣いや使い捨て型の利用を見直し、使い捨てプラスチックゼロを目指します。
2. 必要なプラスチックは化石由来から環境・社会へ配慮した素材へ転換します。
3. 店舗を拠点に使用済みプラスチックの回収・再利用・再生する資源循環モデルを構築し、お客さまとともに持続可能な資源利用に取り組みます。

＜目標＞ 2050年 CO2排出量ゼロの自足可能なプラスチック利用を目指し、

- ◆ 2030年までに、使い捨てプラスチック使用量を2018年比で半減します。
- ◆ 2030年までに、全てのPB商品で環境・社会に配慮した素材を使用します。
- ◆ 2030年までに、PB商品のPETボトルを100%再生または植物由来素材へ転換します。

■マックスバリュ西日本の店頭での資源回収について

当社では、店頭などにリサイクルボックスを設置し、ペットボトル、アルミ缶、食品トレイなどを回収しています。お客さまからいただいた資源の回収を通して循環型社会の構築に向けた取り組みを続けてまいります。

＜2020年度 資源回収量＞



【マックスバリュ西日本のSDGsの取り組み】

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能な世界を実現するために国連サミットで採択された2030年までの国際目標です。当社ではこの17の目標に向けて全社を挙げて取り組んでいます。この度の取り組みは12、13、14、15、17の達成に貢献します。



【この件に関するお問い合わせ先】

マックスバリュ西日本株式会社 総合企画本部 広報部
土居・佐久間 082-535-8516

地域と共に つながる想いを食卓へ

